

3. 地域経済の動向

(1) 北海道

北海道地域では、景気は大幅に悪化している。これは鉱工業生産が大幅に減少し、個人消費が弱含んでおり、雇用情勢が厳しさを増しているからである。

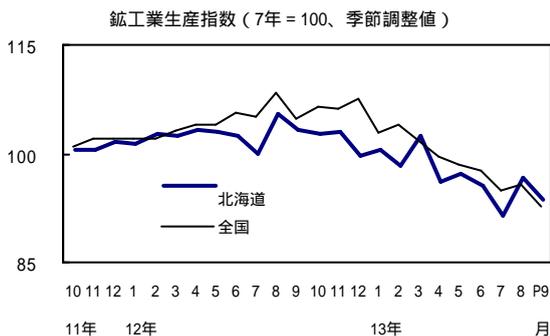
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業はおおむね横ばい。

生乳生産（前年同期比）は、飲用牛乳向けは9月に減少したものの、乳製品向けが増加していることから、7～9月期は1.3%増となった。水産業（主要10港、前年同期比）は、7～9月期は水揚量では1.7%減、金額ではサンマの価格低迷により8.3%減となった。

(2) 鉱工業生産は大幅に減少している。

電気機械は、8月に携帯電話の新機種生産で増加したものの、IT関連需要の減少などから生産は大幅に減少しており、白物家電向けのチップコンデンサーの市況低迷などから、在庫調整が行われている。紙・パルプは、IT関連需要の減少に加え、ラインの定期修理の影響などから、生産は減少している。金属製品は、8月に橋りょうなどで動きがみられたものの、公共工事関連需要の減少などから、生産は減少している。食料品・たばこは、発泡酒需要が底固いことなどから、おおむね横ばいで推移している。窯業・土石は、公共工事関連需要が減少していることなどから、基調としては減少している。



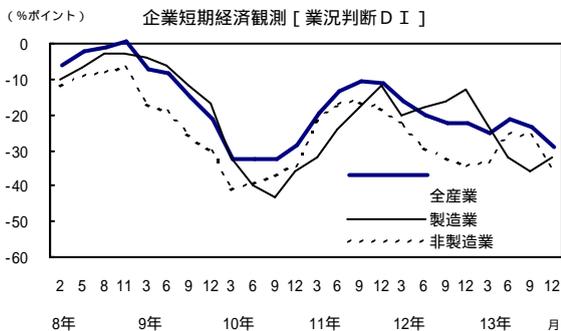
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
食料品・たばこ	24.2	1.3	0.3	6.4	3.1
紙・パルプ	13.1	2.2	3.3	0.2	9.3
窯業・土石	10.8	10.3	0.7	0.6	4.9
金属製品	8.4	6.5	4.8	5.7	7.9
電気機械	8.0	9.2	9.0	8.6	26.1
鉱工業	100.0	4.2	2.6	4.1	0.0

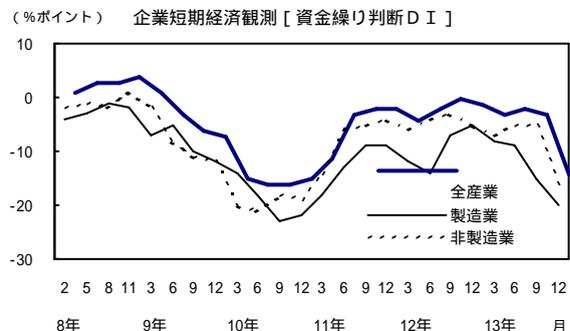
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種
2. 7～9月期は速報値。

(備考) Pは速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I]



(備考) 「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

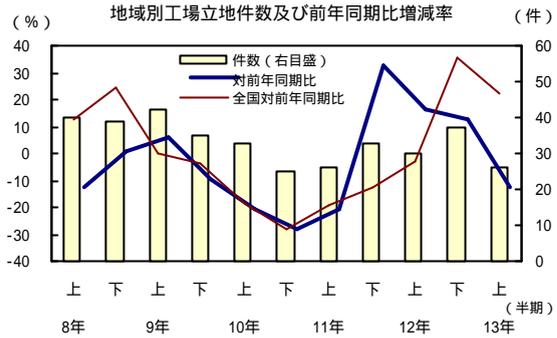
「需要の減退により、貨物量が減少している(輸送業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(4) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

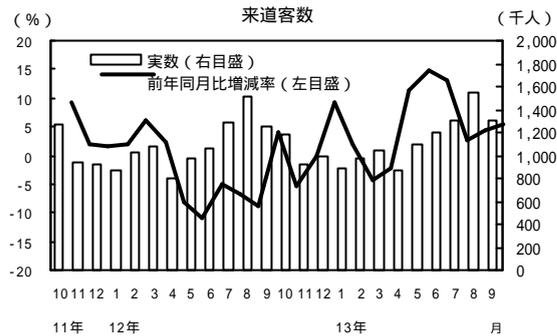
	(前年度比増減率、単位：%)	
	12年度実績	13年度計画
全産業	18.4	12.9(0.1)
製造業	34.0	10.4(3.2)
非製造業	11.5	14.3(1.8)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は持ち直しの動きがみられる。

来道客数(前年同月比)は、7~9月期は2.8%増となり、9月は有珠山噴火前の一昨年の同月と比べても6.7%増と持ち直しの動きがみられる。足元では、米国における同時多発テロの影響により、観光客の北海道へのシフトがみられる。



(備考)北海道観光連盟調べ。

2. 需要の動向

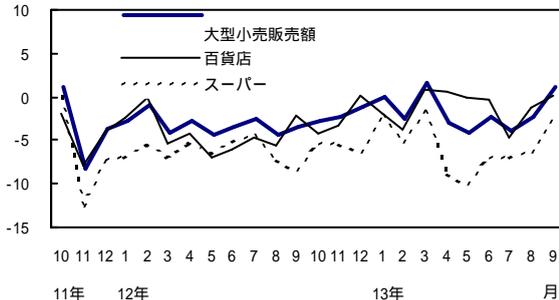
(1) 個人消費は弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

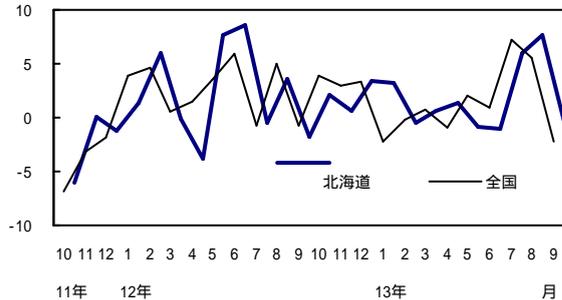
百貨店は、札幌市内の百貨店は大型百貨店の閉店の影響で好調に推移しているものの、地方都市の百貨店は落ち込んでいる。全体では、冷夏により夏物衣料が不振であったが、9月は秋冬物衣料が好調で5か月振りに前年を上回った。ただし、全店舗でみると9月は9.4%減となっている。

スーパーは、衣料品が落ち込み、主力の飲食料品も単価が下落していることなどから低調で、前年を下回っている。9月は秋冬物衣料に動きがみられたことから、減少幅が縮小している。

(%) 大型小売店販売額(店舗調整済、前年同月比増減率)



(%) 乗用車新規登録・届出台数(前年同月比増減率)



景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「秋、冬物の季節商品に対する反応が慎重であり、衝動買いをしなくなっている。特に中年層において、この傾向が顕著である(商店街)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

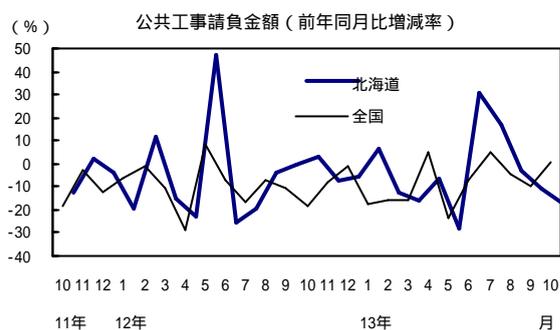
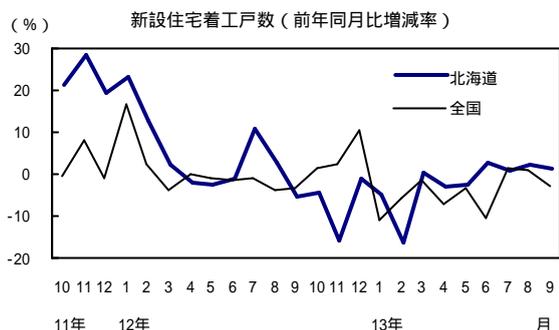
	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	41.5	42.3	41.6	39.6	36.3	36.8	34.5	31.0
先行き判断	45.9	49.1	48.8	42.4	39.3	38.5	33.0	36.9

(備考)巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

貸家が増加しているものの、持家が減少していることなどから、基調としては緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

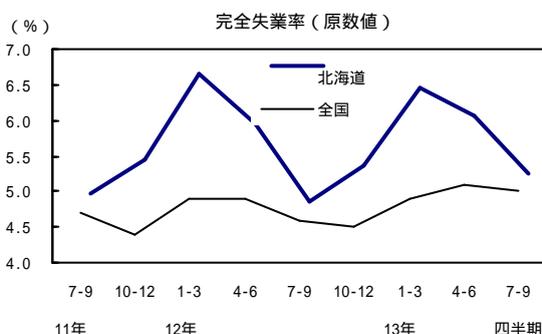


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいで推移している。完全失業率は前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「建設業はやや持ち直しているが、食品品製造業、小売業で求人数が昨年よりも減少している(求人情報誌製作会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は負債総額が増加している。

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年10~12月	13年1~3月	4~6	7~9	13年8月	9	10
倒産件数	12.6	6.2	19.1	15.0	12.2	2.8	30.4
負債総額	22.7	54.2	323.2	2.9	73.8	890.0	60.8

景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・米国テロの影響で国内旅行が増加し、それほど多くはないものの、北海道にも観光客が流れてきている(一般小売店[土産])
- ・狂牛病問題の影響で、来店が敬遠される傾向にある。また、来店しても牛肉関連のメニューが売れない(高級レストラン)

<先行き>

- ・中高年の人は本当に目新しい物でなければ買わない。また彼らは将来に向け貯蓄しているように見受けられる(衣料品専門店)

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	41.7	42.9	42.1	39.5	37.4	36.4	33.0	30.8
先行き判断	46.3	49.4	49.2	42.6	39.1	37.8	30.9	35.9

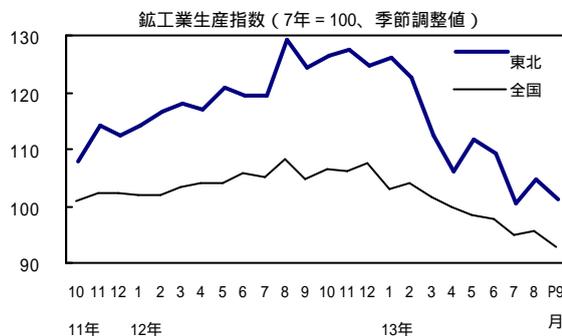
(2) 東北

東北地域では、景気は大幅に悪化している。これは鉱工業生産が著しく減少し、個人消費はやや弱含んでおり、設備投資の先行きについても大幅な減少が見込まれており、また、雇用情勢もさらに厳しさを増しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は著しく減少している。

全体の生産水準は、8月は前月比で一時的に増加したものの、9月は再び減少し、前年同月比でも7か月連続で減少している。パソコンや携帯電話等の新製品の生産効果は限定的であり、電子部品では輸出向けの回復に目処が立たないなど、電気機械工業の減少が続いている。食料品は、水産練製品等が増加している。一般機械は、電気機械等で設備投資を縮減しているために工作機械等の需要が減少し、低迷している。輸送機械は、新型車効果が輸出向けを中心に鈍くなっている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

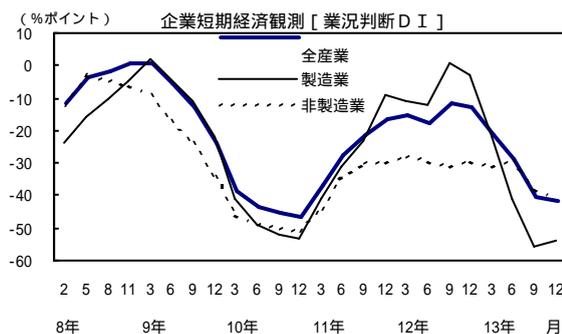
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電気機械	34.8	17.2	14.1	14.0	9.3
食料品・たばこ	9.3	6.4	0.8	0.9	6.1
一般機械	7.5	0.8	7.8	0.5	9.0
繊維	6.7	4.7	5.3	4.9	6.0
窯業・土石	6.3	7.1	9.8	7.9	4.8
鉱工業	100.0	9.6	6.4	7.6	1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種
2. 7~9月期は速報値

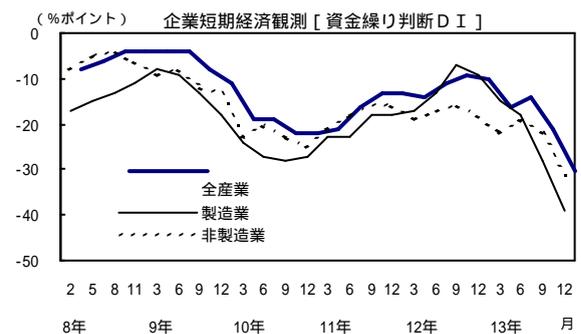
(備考) Pは速報値

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

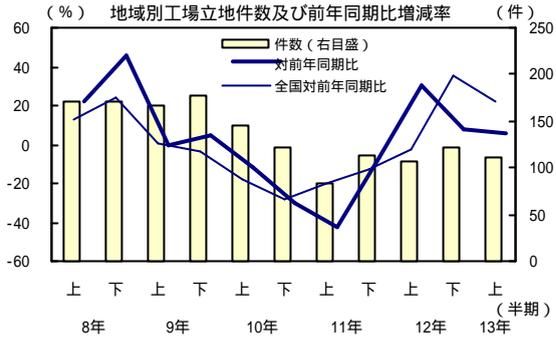
「電気部品製造業の状況が悪くなっている(経営コンサルタント)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を大幅に下回っている。

企業短期経済観測調査〔設備投資（9月調査）〕

(前年度比増減率、単位：%)		
	12年度実績	13年度計画
全産業	3.5	28.9(7.9)
製造業	14.2	34.0(12.5)
非製造業	9.2	21.1(1.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



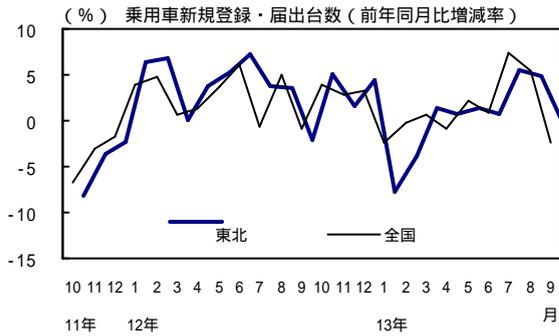
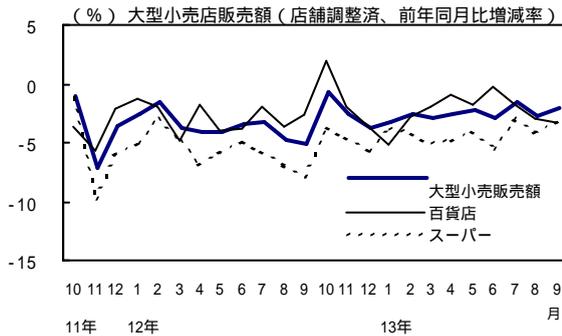
2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、テナント導入による紳士服が引き続き好調であり、身の回り品に動きがあったものの、前年のプロ野球優勝セールの反動により前年を下回っている。全店ベースでは減少幅が拡大している。

スーパーは、発泡酒、清涼飲料等の飲食料品は好調であったものの、衣料品の動きが鈍いため、全体では前年を下回っている。全店ベースでみると、新規大型店の出店効果により四半期では4期連続で前年を上回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「青森市では、先月は大手スーパー、当月は地元スーパーと2か月連続して大型店が倒産している。これが地域の消費マインドに大きな影響を与え、じわじわと買物客の動向が鈍くなっている(衣料品専門店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

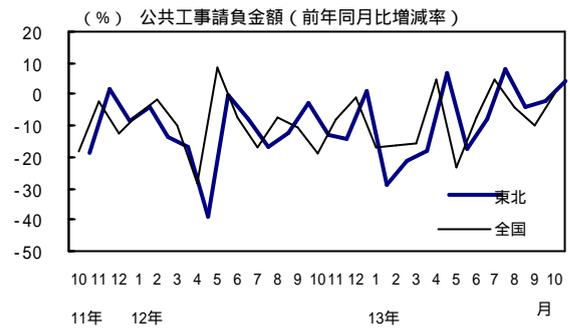
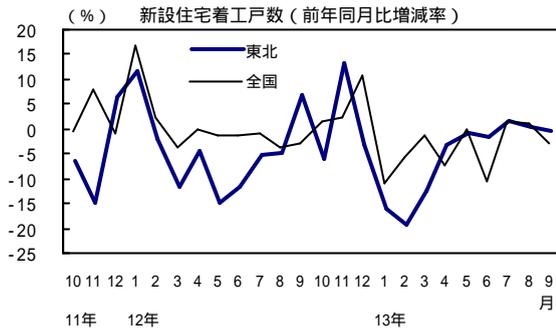
	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	39.9	43.9	41.9	36.7	32.8	28.8	27.1	29.6
先行き判断	42.4	48.3	48.5	39.9	36.6	34.2	29.8	31.2

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は減少している。

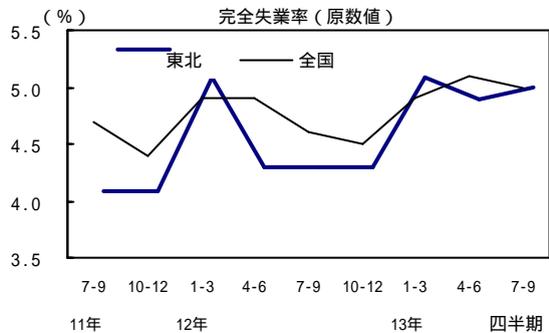
貸家、分譲でこのところ前年を上回っているものの、ウェイトの高い持家で前年を下回っており、基調としては前年を下回っている。

(3) 公共投資は前年を下回っている。
 このところ前年を上回っているものの、基調としては前年を下回っている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢はさらに厳しさを増している。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は、大幅に低下している。完全失業率は、前年同期より上昇し高い水準にある。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「派遣社員がしていた業務を正社員が兼務し、派遣社員の契約を中止する企業も出てきている(人材派遣会社)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は倒産件数が減少している。(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	12年10~12月	13年1~3月	4~6	7~9	13年8月	9	10
倒産件数	11.4	0.8	12.3	10.1	15.5	8.5	4.3
負債総額	0.1	118.4	64.6	28.3	3.6	172.0	68.0

景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・海外旅行は例年の10%程度しかないが、国内旅行は、秋の紅葉、宮城国体、身障者スポーツ大会などで忙しい(旅行代理店)
- ・狂牛病の影響で焼き魚の売上が1.5倍になり、来客数も増えたが客単価が低下してしまい、全体としての状況は厳しい(その他飲食[そば])

<先行き>

- ・電気機械器具製造業で、500人を超える規模の希望退職者募集を行うなど、雇用調整が多数予定されており、今後求職者の大幅な増加が見込まれる(職業安定所)

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	38.0	39.9	39.1	34.5	31.8	28.2	27.1	27.2
先行き判断	41.1	46.9	46.9	38.3	35.1	32.2	28.7	29.4

(3) 北 関 東

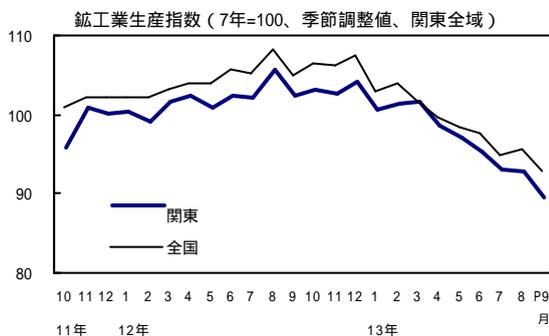
北関東地域では、景気は一段と悪化している。これは鉱工業生産が著しく減少し、住宅建設は減少し、雇用情勢は厳しさを増しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は著しく減少している。(関東全域)

電気機械は、IT関連の不振が続いており、半導体などの電子部品を中心に生産が大幅に減少している。一般機械は、電気機械をはじめ設備投資を行う環境にない企業が多く、半導体製造装置などの工作機械を中心に生産が大幅に減少している。輸送機械は、新型車投入効果により7、8月と好調に推移したが長続きせず9月には前年同月比でマイナスに転じた。

北関東地域においては、電気機械はデジタル伝送装置、半導体集積回路、半導体・IC測定器、携帯電話等、一般機械は、半導体製造装置等を中心とした減少が顕著である。



(備考) Pは速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

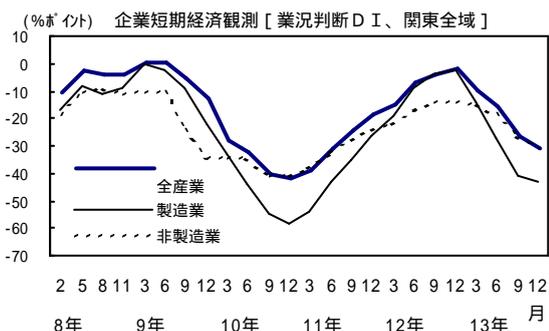
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電気機械	23.6	8.3	11.2	9.4	7.4
化学	13.2	2.8	2.6	1.8	2.2
一般機械	12.0	12.2	11.2	8.9	3.2
輸送機械	11.3	5.7	1.1	1.6	10.0
食料品・たばこ	5.8	2.0	1.7	3.5	1.9
鉱工業	100.0	4.1	5.5	4.8	2.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

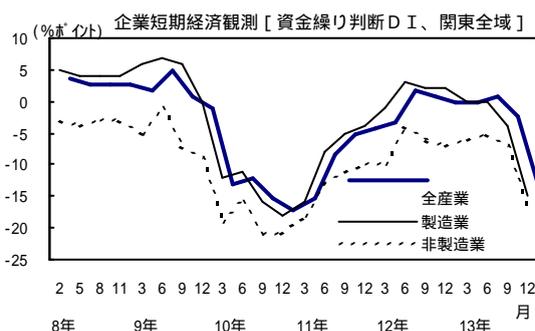
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI (関東全域)]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「3か月前に比べ受注量は5%減少している。工業団地内の同業者も休業日が増加している(輸送用機械器具製造業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績とほぼ同水準となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査、関東全域)]

	(前年度比増減率、単位：%)	
	12年度実績	13年度計画
全産業	5.1	1.3(0.6)
製造業	9.2	2.1(2.1)
非製造業	6.6	1.2(1.0)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



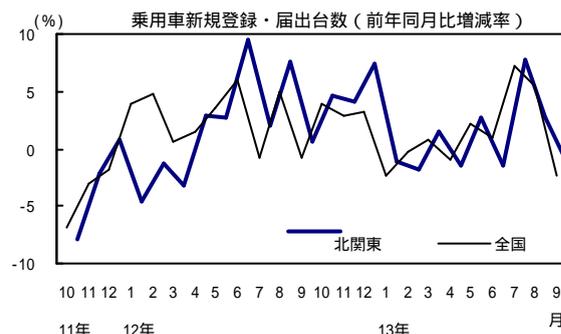
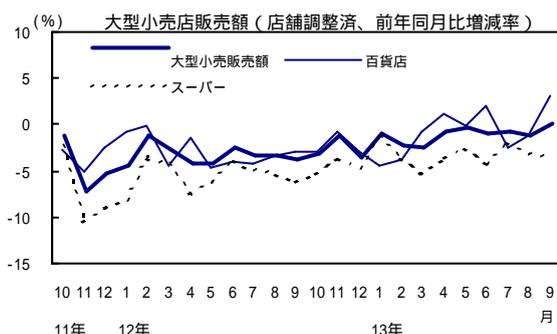
2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、猛暑効果やクリアランスセール前倒しの反動で、7月後半から8月にかけて衣料品、家庭用品を中心に低調な動きとなり、両月とも前年を下回った。9月は気温が低温で推移したことなどから衣料品が、閉店した店舗からの客の取り込みが依然続いていることなどから身の回り品がそれぞれ好調に推移し、前年を上回った。

スーパーは、低温だった9月に衣料品が好調であったものの、消費の二極化により飲食料品の低価格志向が続いており、前年の販売額を下回る状況が続いている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [家計動向関連D I (現状判断)]

「米国テロの影響で、航空券、海外旅行の販売が減少している (旅行代理店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

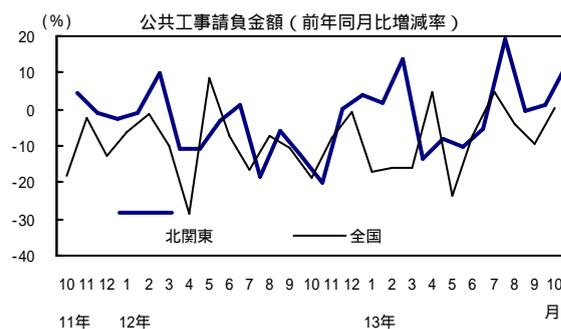
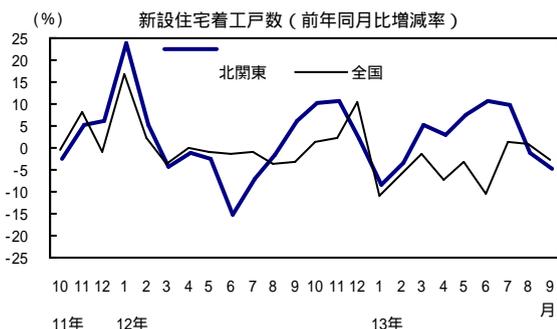
	13年 3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	42.9	44.6	42.0	37.8	31.5	27.4	26.1	26.2
先行き判断	46.9	52.2	48.0	41.1	38.5	33.5	31.3	33.2

(備考) 巻末主要指標 (9) の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は減少している。

貸家、分譲は前年を上回っているが、持家は下回っており、全体では減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

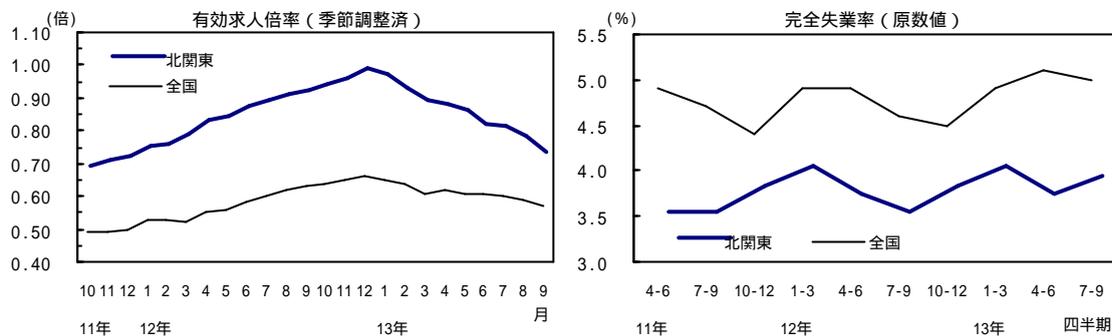


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

「合同就職面接会では、コンピュータや研究開発の技術者、高度な知識を有する営業職の求人が目立っている。学生が希望する事務職については、企業は欠員が生じても、配置転換等でやりくりをしている (学校 [短期大学])」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は倒産件数、負債総額ともに減少している。 (前年同期 (月) 比増減率、単位: %)

	12年10~12月	13年1~3月	4~6	7~9	13年8月	9	10
倒産件数	13.5	3.6	3.6	6.9	8.7	15.0	22.5
負債総額	149.8	46.0	28.4	16.0	7.1	21.3	87.7

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ADSL、CATV、インターネット等の事業において、格安のADSL業者に押され、申込者数が減少してきている (通信業)。
- ・倒産やリストラなどによる非自発的離職者が若年層にも広がり、新規求職者数が過去最高になるなど求職者数が増加する一方である (職業安定所)。

<先行き>

- ・仕入価格の見直しにより、売上に対する利益率は上がっているが、牛肉の売上が減少しており、年末にかけては現状維持である (スーパー)。

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	40.4	42.3	37.3	34.1	31.0	26.1	25.3	25.0
先行き判断	44.3	48.8	46.5	40.2	36.3	32.7	29.5	30.1

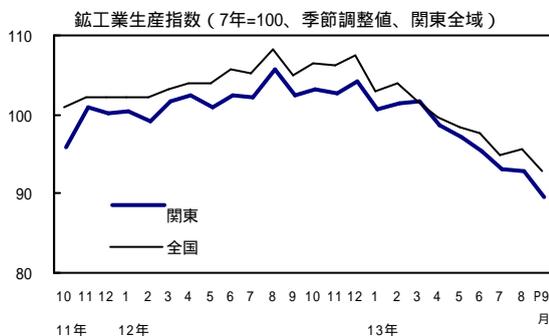
(4) 南 関 東

南関東地域では、景気は一段と悪化している。これは鉱工業生産が著しく減少し、住宅建設は緩やかに減少し、雇用情勢は厳しい状況となっているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は著しく減少している。(関東全域)

電気機械は、IT関連の不振が続いており、半導体などの電子部品を中心に生産が大幅に減少している。一般機械は、電気機械をはじめ設備投資を行う環境にない企業が多く、半導体製造装置などの工作機械を中心に生産が大幅に減少している。輸送機械は、新型車投入効果により7、8月と好調に推移したが長続きせず9月には前年同月比でマイナスに転じた。南関東地域においては、電気機械はデジタル伝送装置、半導体集積回路、電子交換機等、一般機械は、半導体製造装置等を中心として減少している。



(備考) Pは速報値

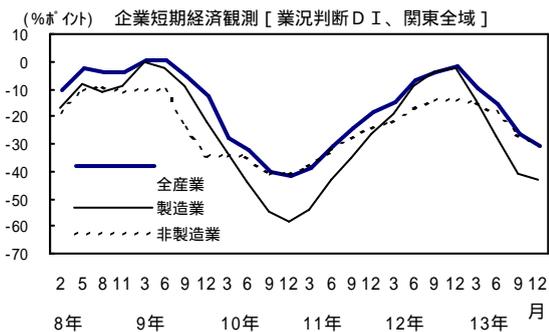
域内主要業種の動向(季節調整値、前月比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期		
電気機械	23.6	8.3	11.2	9.4	7.4		
化学	13.2	2.8	2.6	1.8	2.2		
一般機械	12.0	12.2	11.2	8.9	3.2		
輸送機械	11.3	5.7	1.1	1.6	10.0		
食料品・たばこ	5.8	2.0	1.7	3.5	1.9		
鉱工業	100.0	4.1	5.5	4.8	2.2		

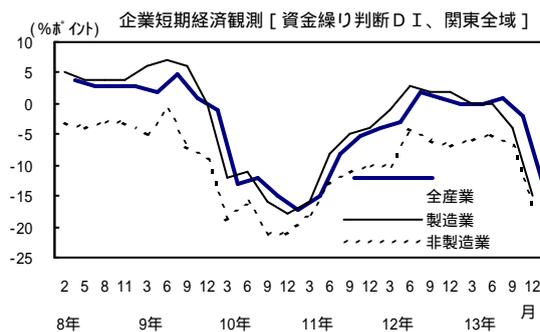
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI (関東全域)]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「メーカー等が海外に工場を移転し、安価なものを輸入している影響が、クライアントの中小企業に出ている(税理士)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績とほぼ同水準となっている。

企業短期経済観測調査〔設備投資（9月調査、関東全域）〕

	（前年度比増減率、単位：％）	
	12年度実績	13年度計画
全産業	5.1	1.3(0.6)
製造業	9.2	2.1(2.1)
非製造業	6.6	1.2(1.0)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



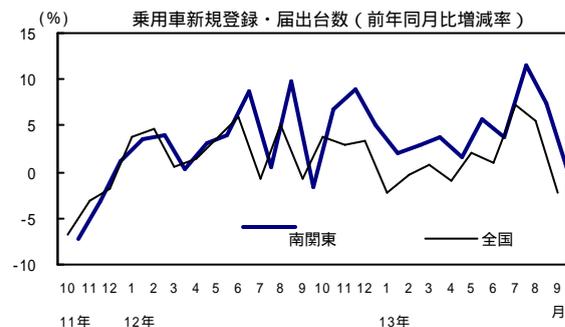
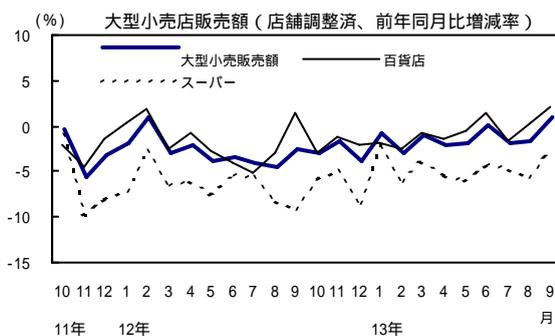
2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、猛暑効果やクリアランスセール前倒しの反動で衣料品の動きが鈍かった7月は前年を下回ったものの、根強いブランド品志向やリニューアル効果、9月の気温が低く推移したことなどに支えられ8、9月は身の回り品、衣料品が好調で、2か月連続で前年を上回った。

スーパーは、低温だった9月に衣料品が好調であったものの、消費の二極化により飲食料品の低価格志向が続いているため、前年の販売額を下回る状況が続いている。



景気ウォッチャー調査（10月調査）〔家計動向関連D I（現状判断）〕

「来客数は変わらないが、狂牛病問題で肉の売上が対前年比80%に減少し、食品の売上が全体的に落ちている（スーパー）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

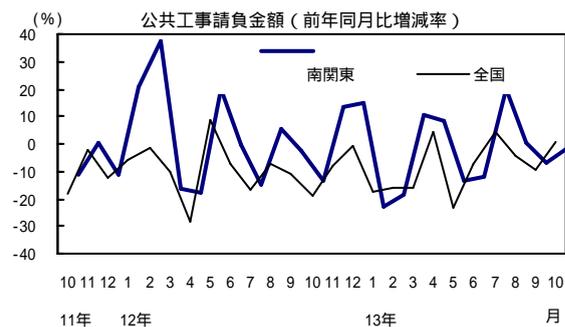
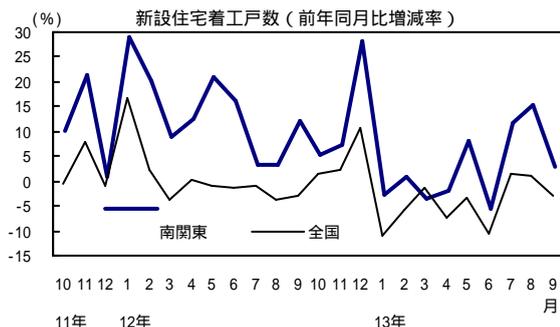
	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	43.6	41.2	46.9	39.5	38.0	32.3	30.7	30.4
先行き判断	42.3	49.0	47.8	40.3	40.6	37.9	33.1	35.1

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

貸家、分譲に増加がみられることからこのところ増加しているものの、持家は減少しており全体の基調としては緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

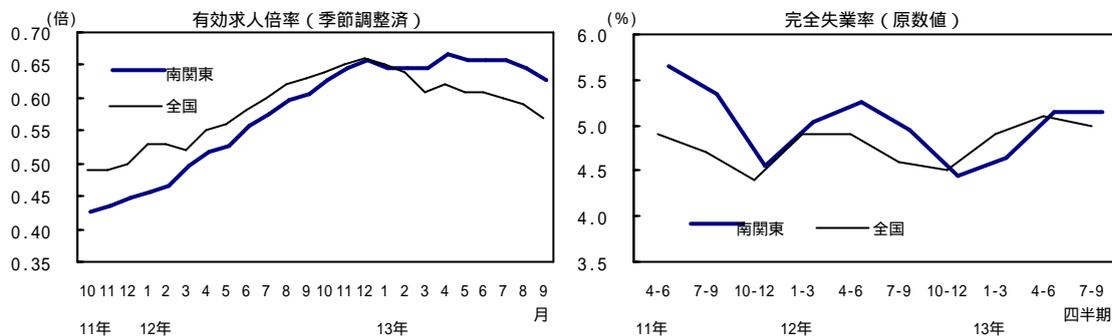


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況となっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

「求人募集の数が非常に減少している。必要でも募集できず、少ない人数で必死に対応したり、生産業務縮小で人員削減を行っている企業が増加している (新聞社 [求人広告])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(前年同期(月)比増減率、単位: %)

	12年10-12月	13年1-3月	4-6	7-9	13年8月	9	10
倒産件数	12.2	3.5	8.4	2.1	6.8	5.6	15.1
負債総額	1295.4	51.6	67.5	69.9	69.7	0.6	95.4

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・家電リサイクル法の施行後落ち込んでいた冷蔵庫、洗濯機、エアコンが持ち直している。また、プラズマディスプレイ、液晶テレビなど、薄型の新機能テレビが売れ始めてきている (家電量販店)。
- ・狂牛病の関係で、化粧品に入れてはいけない成分が突然指示され、回収を始めている。代替品の発売も先延ばしで、良くない要因が重なっている (化学工業)。

<先行き>

- ・加工食品業界、特に食肉加工品では、狂牛病の影響が非常に大きく、これがしばらく続く (食料品製造業)。

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	37.8	35.9	44.7	37.8	35.9	30.6	30.0	28.5
先行き判断	39.7	39.5	47.5	39.7	39.5	32.7	29.5	30.1

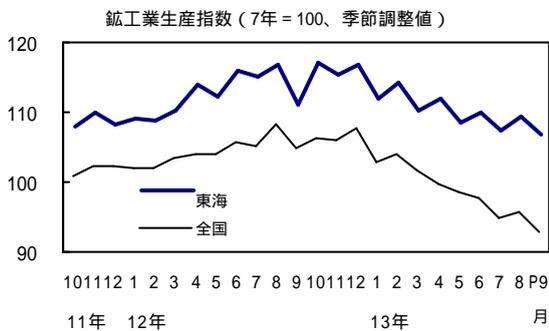
(5) 東海

東海地域では、景気は悪化している。これは鉱工業生産がさらに減少し、個人消費はやや弱含み、雇用情勢が厳しさを増しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はさらに減少している。

自動車は輸出が弱い動きとなっているものの、国内販売で新型車投入効果がみられたことから、一時的な増加がみられた。電気機械は、携帯電話、パソコン向けの半導体集積回路、電子計算機・同関連装置等が減少していることから、全体でも減少している。一般機械は繊維機械のアジア向け輸出の伸びが弱含み、金属工作機械の内需が減少傾向にあることから、全体でも減少傾向にある。窯業・土石は、減少基調にあるものの、ファインセラミックスで一部メーカー向けに動きがみられたため、一時的に増加している。



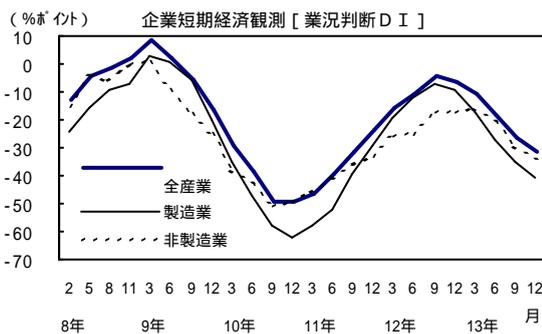
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	30.3	1.2	5.6	6.1	2.5
一般機械	11.4	7.2	7.8	7.1	12.5
電気機械	11.2	2.2	14.4	13.8	8.7
窯業・土石	7.3	21.8	4.9	2.3	2.2
化学	5.7	1.0	2.0	2.2	3.0
鉱工業	100.0	1.8	2.1	1.6	1.0

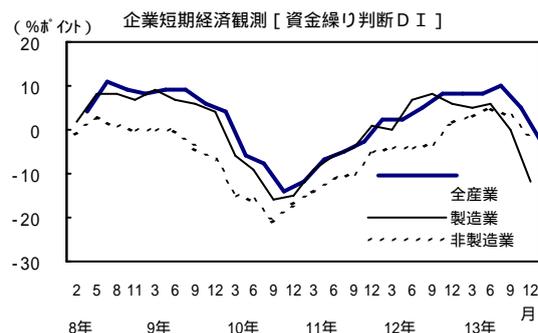
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種
2. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部
3. 7~9月期は速報値。

(備考) PIは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「工作機械関係の生産受注量が極端に減少している(化学工業)」など、「やや悪くなっている」「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)		
	12年度実績	13年度計画
全産業	4.2	2.3
製造業	1.5	6.3
非製造業	6.2	8.2



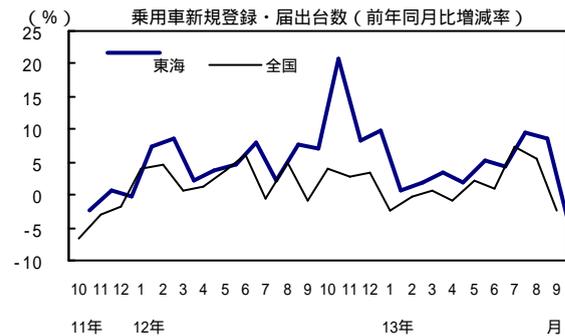
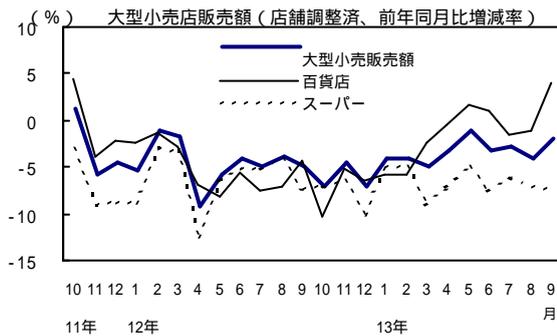
2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、低価格傾向が直近も含め続いているものの、9月は気温低下により秋物衣料に動きがみられたこと、昨年の東海豪雨による売上減少の反動から前年を上回った。直近では狂牛病問題により精肉が減少しているものの、魚や野菜にシフトする動きがみられる。

スーパーは、衣料品等の不振が直近も含め続いているものの、新規出店効果により、店舗調整前では7～9月期3.9%増となっている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [家計動向関連D I (現状判断)]

「狂牛病の影響で精肉の売行きが悪く、牛肉はほとんど売れていない。代わりに魚が売れているわけでもないため、販売量が落ちている (スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

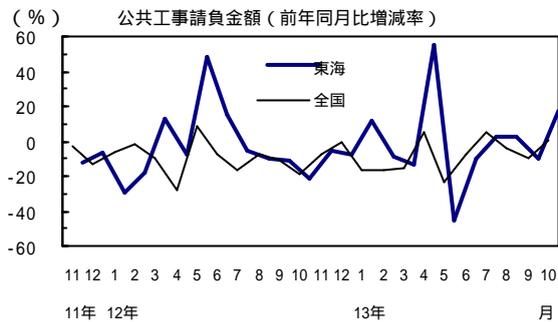
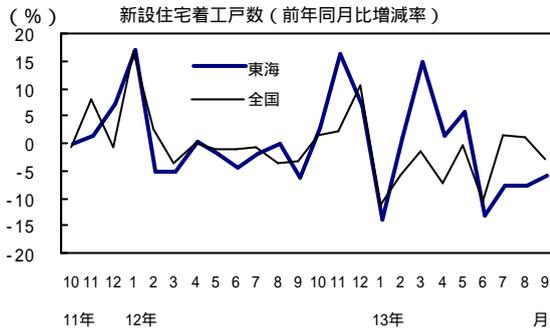
	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	44.5	45.9	48.2	42.0	33.8	33.0	30.6	31.0
先行き判断	45.3	49.8	52.0	44.3	34.6	36.4	35.1	37.9

(備考) 巻末主要指標 (9) の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年をわずかに上回ったものの、持家、分譲は前年を下回っており、全体では減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

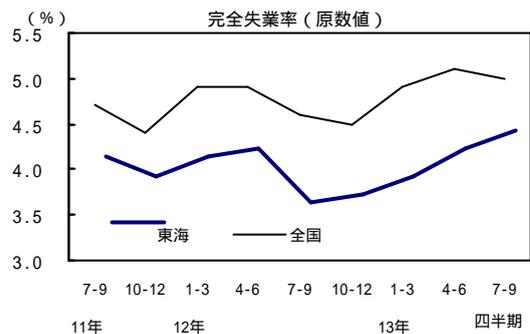
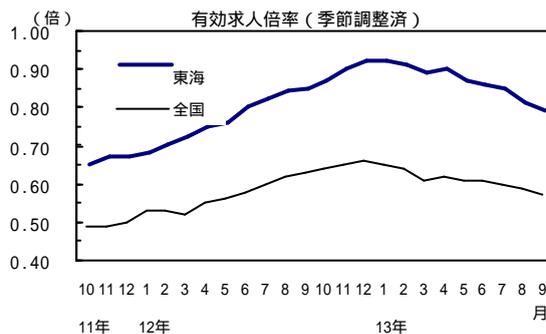


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は求人数が減少し、求職者数が増加したことから低下している。完全失業率は前年同期を大幅に上回り、高い水準となっている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「派遣の新規受注が激減している。業務縮小で派遣契約を終了するケースも目立つ(人材派遣会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年10-12月	13年1-3月	4-6	7-9	13年8月	9	10
倒産件数	1.9	8.3	13.4	4.3	17.9	3.9	19.0
負債総額	134.2	14.3	13.0	13.4	74.5	141.6	12.1

景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・レストランメニューでも、一番安いメニューの選択率が高まっている(観光型ホテル)
- ・これまで安定していた自動車関連の企業まで、求人数の減少傾向が出てきている(アウトソーシング企業)

<先行き>

- ・一部輸入特選ブランド商品のみは引き続き好調であるが、他商品への波及は今後も期待できない(百貨店)

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	43.6	43.5	45.3	38.9	32.3	31.9	28.7	27.9
先行き判断	44.7	49.5	50.3	43.9	34.0	35.5	32.4	36.4

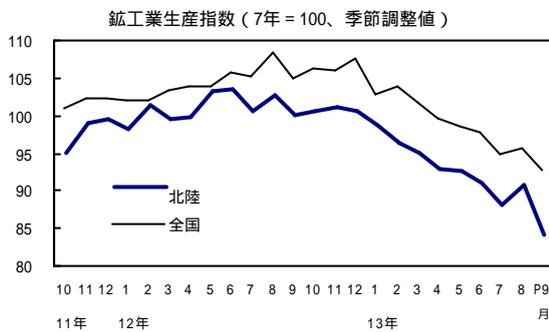
(6) 北 陸

北陸地域では、景気は一段と悪化している。これは個人消費がやや弱含み、設備投資の先行きが前年度実績とほぼ同水準となり、雇用情勢が厳しさを増しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

電気機械はディスプレイの輸出の減少などから生産が減少している。一般機械は建設機械の減産が続いており、これまで高操業が続いていた工作機械、繊維機械も受注の減少から、生産が減少している。繊維は、輸出の減少基調が続いており、衣料が輸入品と競合していることもあって低水準な生産が続いている。金属製品はアルミ建材がビル用で需要が頭打ちであり、住宅用で生産の抑制基調が続いているため、減少傾向にある。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

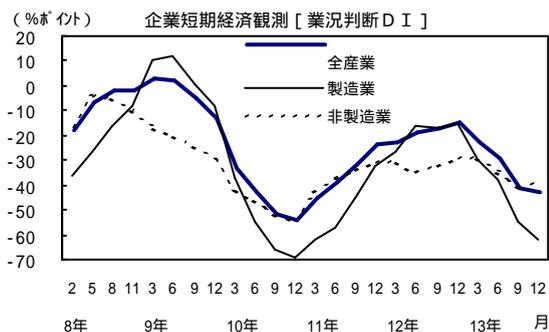
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
金属製品	15.6	0.5	0.9	-	-
繊維	15.3	0.1	3.5	-	-
電気機械	14.6	11.5	7.5	-	-
一般機械	13.2	1.2	17.6	-	-
化学	11.3	2.8	1.9	-	-
鉱工業	100.0	4.7	5.1	-	-

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種

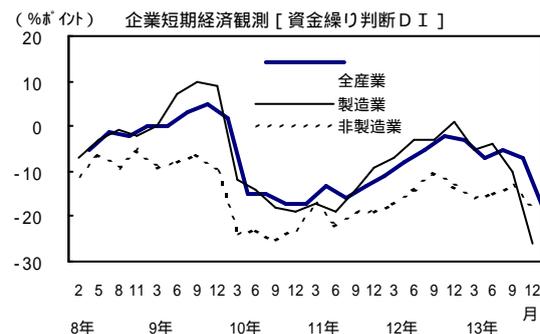
2. 7~9月期は推定値

(備考) PIは速報値

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI]



(備考) 「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測



(備考) 「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測

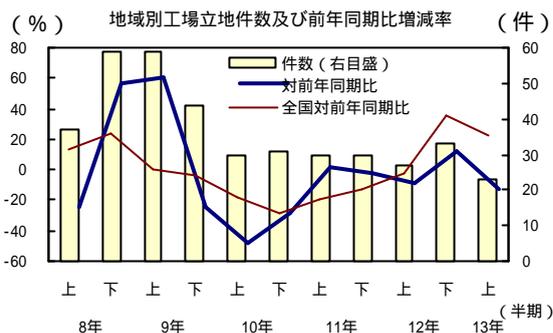
景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「米国テロで今月の米国の販売量が3割以上減少している。それにつれてヨーロッパの受注もかなり落ち込んでいる(精密機械器具製造業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績とほぼ水準となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)		
	12年度実績	13年度計画
全産業	15.4	1.1
製造業	20.5	2.3
非製造業	5.1	1.8



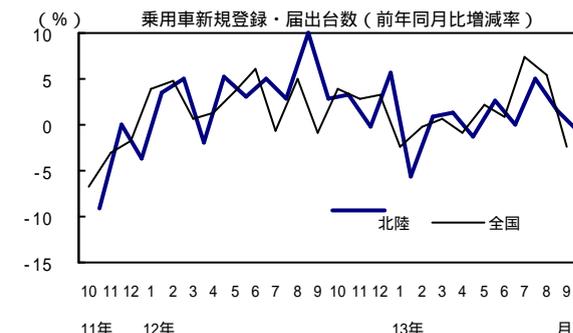
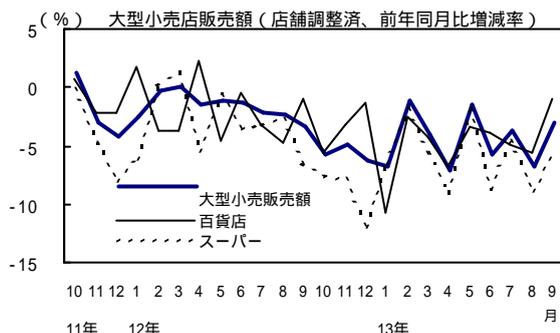
2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、9月は気温の低下により秋物衣料に動きがみられたことからほぼ前年並みとなった。一般的に高額品の売行きは良いものの、低価格傾向が進んでいる。直近では狂牛病問題から肉類が減少しているが、魚類、惣菜が増加傾向にある。

スーパーは、9月に気温の低下により秋物衣料に動きがみられたが、低価格傾向が直近も含め続いており前年を下回っている。店舗調整前は、新規出店効果から、7~9月期8.2%増となっている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [家計動向関連D I (現状判断)]

「大型テレビやパソコンなどの高額商品の売行きが非常に悪い (家電量販店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

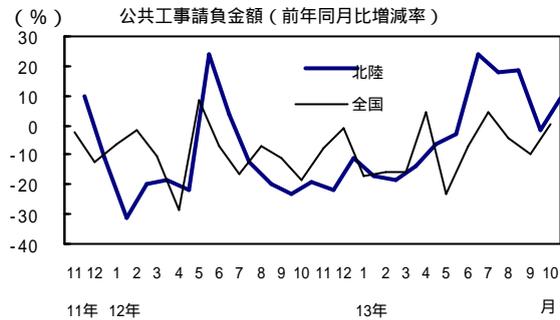
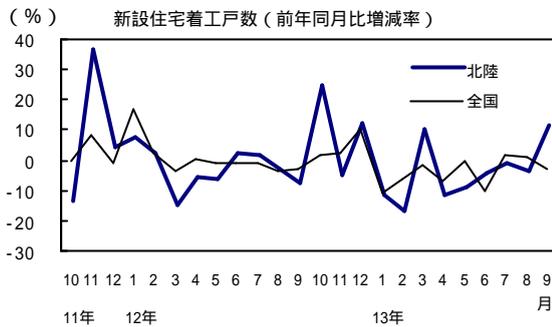
	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	37.5	38.3	41.0	36.4	33.6	31.3	32.6	31.7
先行き判断	37.9	47.3	48.9	40.4	37.3	38.1	36.0	30.6

(備考) 巻末主要指標 (9) の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では7～9月は前年を上回ったが、基調としては減少している。

(3) 公共投資はこのところ前年を上回っている。

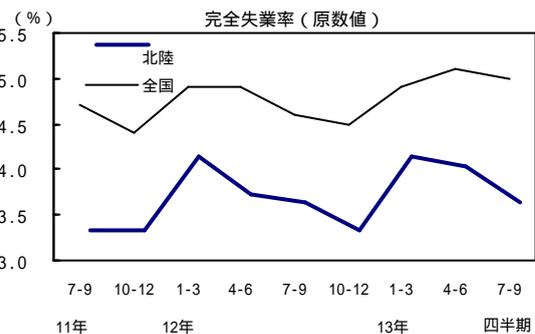
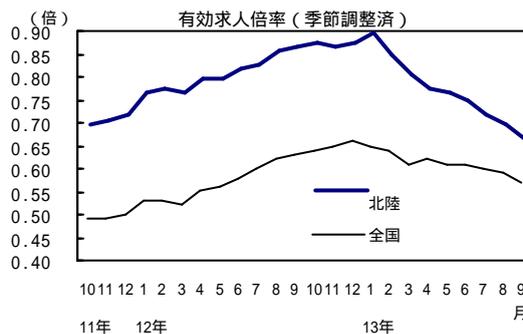


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は求人数が減少し、求職者数が増加したことから低下している。完全失業率は前年同期と同水準になっている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「全般的に求人情数の減少傾向が続いているが、飲食関連では一連の狂牛病問題による売上激減のため、アルバイト、パートの求人減少が顕著である(求人情報誌製作会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は倒産件数が減少している。

(前年同期(月)比増減率 単位: %)

	12年10-12月	13年1-3月	4-6	7-9	13年8月	9	10
倒産件数	42.3	9.7	8.2	13.8	20.5	0.0	41.7
負債総額	105.0	7.7	14.2	51.7	1.8	104.5	53.9

景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・大型テレビやパソコンなどの高額商品の売行きが非常に悪い(家電量販店)
- ・米国テロにより海外旅行の一部が国内旅行にシフトしたため、来客数がやや増加している(観光型旅館)

<先行き>

- ・製造業の人員整理が特に多いため、求人数が減少している(民間職業紹介機関)

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	35.3	36.8	37.1	33.3	32.4	28.8	29.9	28.6
先行き判断	36.3	44.2	43.8	37.9	36.7	35.2	31.7	29.6

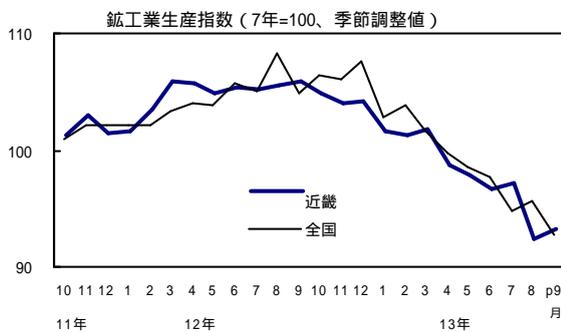
(7) 近畿

近畿地域では、景気は一段と悪化している。これは鉱工業生産が大幅に減少し、業況判断が悪化し、雇用情勢も厳しさを増しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

電気機械は、パソコン、携帯電話向けに半導体や通信・電子部品が不振で一段と生産が減少している。一般機械は、IT関連の設備投資が抑制されていることから、半導体製造装置の受注が減少しており、建設機械や運搬機械では内需が不振なことから生産水準が低下するなど、全体でも生産が減少している。化学は、プラスチックなどのIT関連材料が不振のほか、窯業・土石でもファインセラミックスの生産が低調に推移するなど、IT関連需要の減少の影響が現れている。繊維は、需要の低迷や輸入品との競合から不振が続いている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

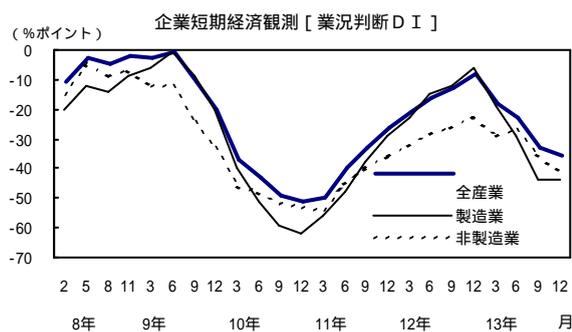
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電気機械	17.7	5.5	7.3	6.6	8.8
一般機械	16.2	10.3	3.9	5.7	0.7
化学	11.8	1.5	5.9	4.4	2.2
金属製品	7.3	2.6	1.0	2.5	3.2
繊維	7.3	1.6	4.0	2.3	0.5
鉱工業	100.0	3.8	3.5	3.4	1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種

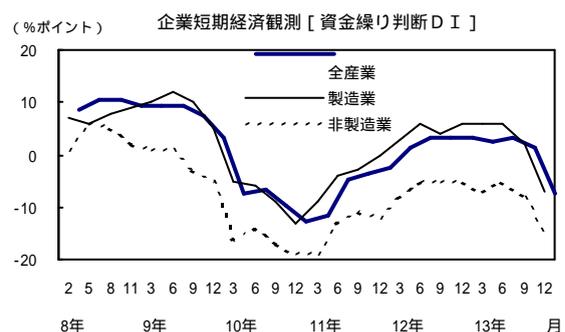
2. 7~9月期は速報値

(備考) PIは速報値

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI]



(備考) 「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測



(備考) 「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

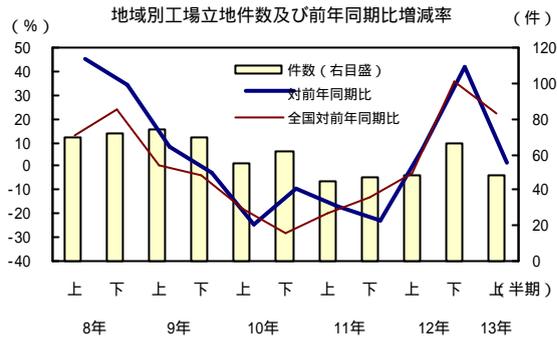
「減産体制をとり、売値の下落を止めようとしているが一向に効果が現れない。受注量が減少している(鉄鋼業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

	(前年度比増減率、単位：%)	
	12年度実績	13年度計画
全産業	4.0	7.2(4.6)
製造業	12.1	4.7(8.5)
非製造業	3.1	9.7(0.0)

(備考) ()は前回(6月)調査比修正率。



2. 需要の動向

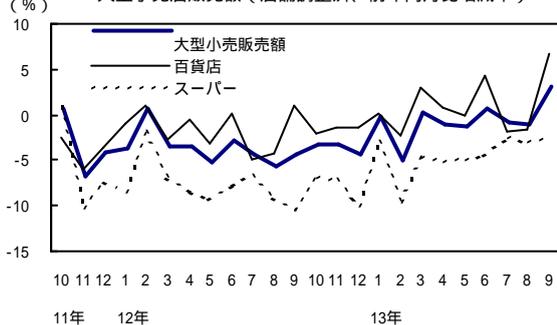
(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

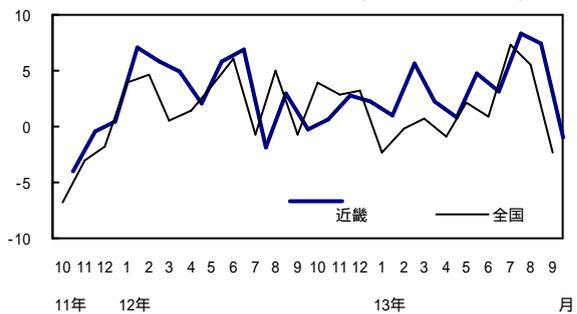
百貨店は、7、8月と2か月続けて前年を下回ったが、9月は秋物衣料が好調なこと、一部店舗の改装効果などもあり、6.8%増と高い伸びを示した。商品別にみると、家具・家電・家庭用品は引き続き不調だったものの、婦人衣料やアクセサリなどの身の回り品は好調に推移している。

スーパーは、23か月連続で前年を下回る動きが続いている。9月の気温低下が秋物衣料品の販売にプラスに寄与した他、飲食料品も3か月続けて前年を僅かに上回ったものの、衣料品、身の回り品などが不振であった。

大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同月比増減率)



乗用車新規登録・届出台数 (前年同月比増減率)



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [家計動向関連D I (現状判断)]

「客の買物がチラシ広告の特売品に偏っている。近隣で各店の安い物だけを選んで買っている状況が顕著にみられる (スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

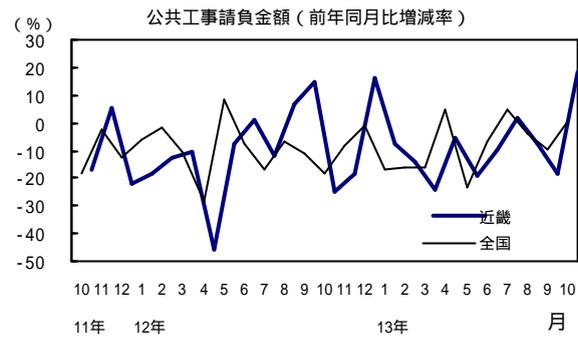
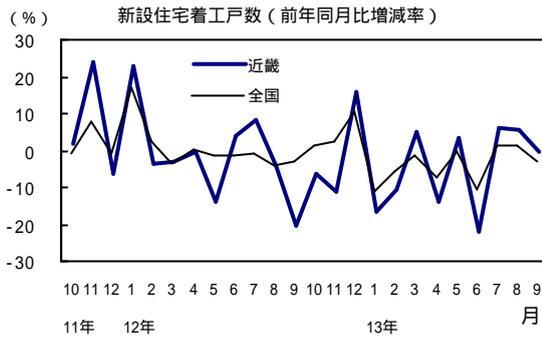
	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	42.7	45.2	47.1	42.2	38.7	33.4	27.1	29.6
先行き判断	46.7	52.3	50.2	45.6	38.1	36.0	29.1	33.7

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

分譲、貸家の増加により、2か月続けて増加したものの、9月は前年を下回り、基調としては緩やかに減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

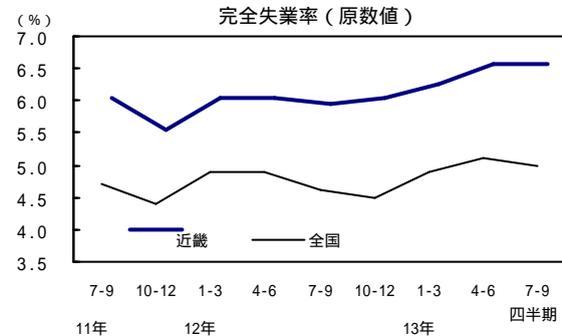
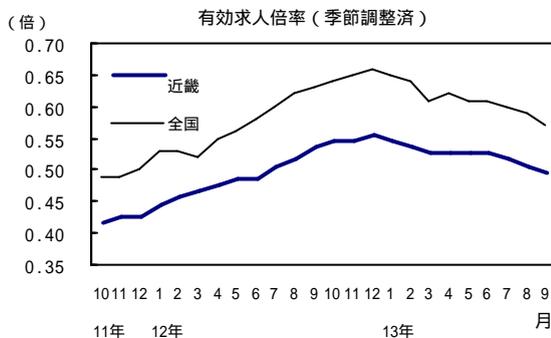


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は求人数が減少し、低下している。完全失業率は前年同期を上回り高い水準にある。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「求人数が減少している。募集を行っている企業でも、正社員を募集するのではなく、パートや人材派遣で調達しようとする動きがある(新聞社〔求人広告])」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年10~12月	13年1~3月	4~6	7~9	13年8月	9	10
倒産件数	14.7	5.1	3.6	2.1	6.9	6.4	15.5
負債総額	38.7	209.8	9.9	94.1	27.0	1736.0	74.6

景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・米国テロを受けた武力行使の長期化による影響に加え、狂牛病の発生により肉類の販売ができない。焼肉レストラン等は大変苦戦を強いられている(一般レストラン)。
- ・大手企業の大型リストラが中小企業に影響しており、求人はあってもコストの低いパートタイマーの採用に代わっている(人材派遣会社)。

<先行き>

- ・パソコンの新製品が出るが、それよりも高収益である冷蔵庫、洗濯機の動きが非常に悪化している。買い控えの動きが顕著になっている(家電量販店)。

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	40.4	40.6	43.5	39.8	35.6	32.1	26.8	27.4
先行き判断	45.4	48.8	49.0	44.2	37.4	36.0	29.3	31.8

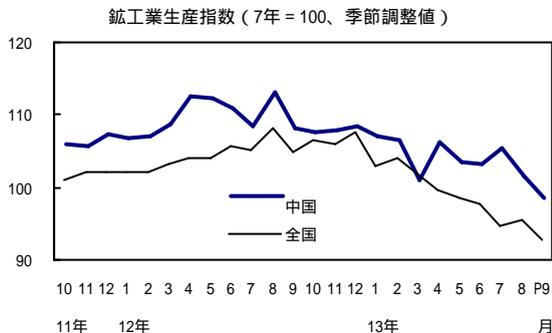
(8) 中国

中国地域では、景気は悪化している。これは鉱工業生産がさらに減少し、個人消費はやや弱含んでおり、雇用情勢が厳しさを増しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はさらに減少している。

電気機械は、パソコンや携帯電話の需要が落ち込んでいることから、生産や出荷が減少しており、在庫は増加している。一般機械は、7月に半導体製造装置などに動きがみられたものの、生産は減少している。化学は、IT関連需要の減少や海外製品の流入により、生産が減少している。鉄鋼は、薄板類が減少しているものの、造船向けの厚板が増加しており、生産はおおむね横ばいで推移しているが、在庫は増加している。自動車は、北米向け輸出の増加から生産は増加しているものの、足元では米国における同時多発テロの影響から減産を行っている。



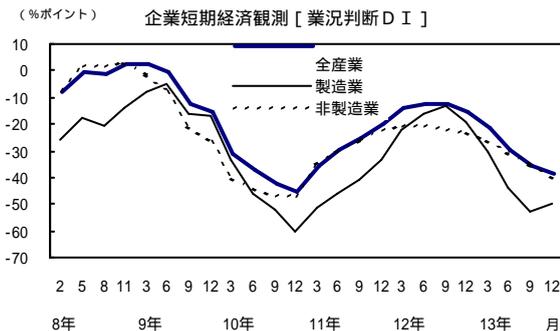
(備考) Pは速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

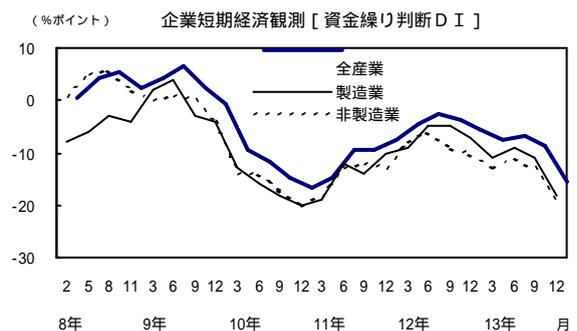
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
化学	16.5	1.2	1.4	1.2	4.8
一般機械	11.5	1.9	2.1	1.4	1.0
鉄鋼	11.4	1.2	0.1	0.6	3.1
電気機械	10.3	8.0	6.0	7.3	8.2
自動車	9.8	6.5	2.8	5.6	29.9
鉱工業	100.0	0.5	2.5	1.0	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI]



(備考) 「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「アメリカのIT不況に伴う国内家電メーカーの大幅な減収減益による影響が出てきている(鉄鋼業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

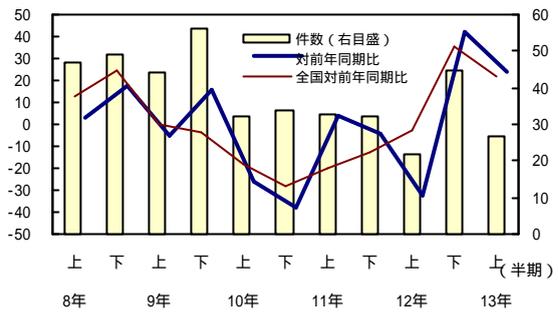
(前年度比増減率、単位：%)

	12年度実績	13年度計画
全産業	0.1	8.7 (0.4)
製造業	13.0	4.2 (1.2)
非製造業	10.2	13.1 (0.6)

(備考) ソフトウェアを含む設備投資。

()は前回(6月)調査比修正率。

地域別工場立地件数及び前年同期比増減率 (件)



2. 需要の動向

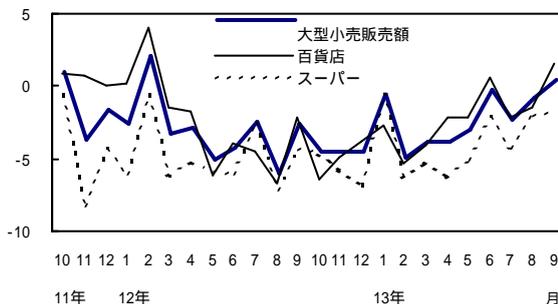
(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

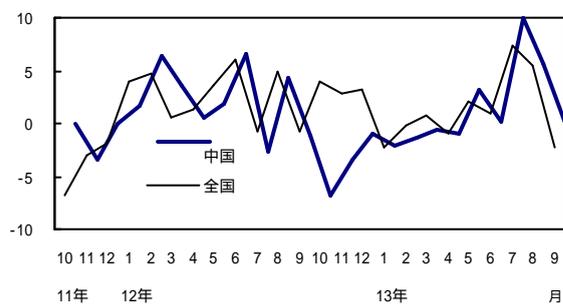
百貨店は、7月は中元ギフトの早期受注実施の反動がみられ、8月は猛暑による来客数の減少から夏物処分セールが伸び悩んだ。9月は気温が低めに推移したことから秋物衣料が好調で、3か月振りに前年を上回った。

スーパーは、猛暑により清涼飲料水などに動きがみられたものの、9月に狂牛病の問題により精肉の売上が減少したなど、主力の飲食料品が依然として不振であることから前年を下回っている。

(%) 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同月比増減率)



(%) 乗用車新規登録・届出台数 (前年同月比増減率)



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [家計動向関連 D I (現状判断)]

「携帯電話やPHSの販売において、個人新規契約件数の減少が顕著である(通信会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

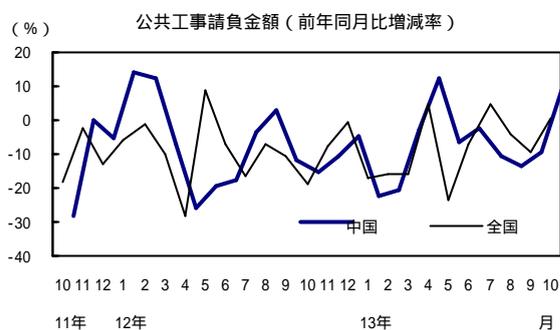
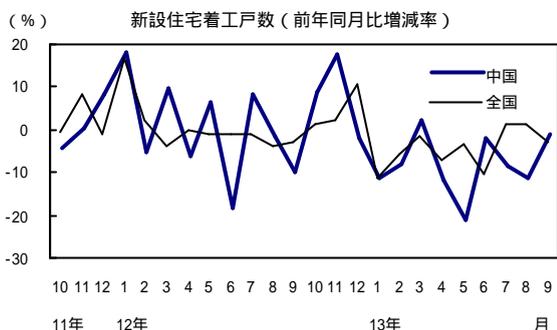
	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	44.6	47.9	48.2	41.1	36.8	37.2	35.1	30.7
先行き判断	43.2	51.4	52.5	47.1	44.3	37.6	34.9	35.3

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は減少している。

持家、分譲を中心に前年を下回っていることから、基調としては減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

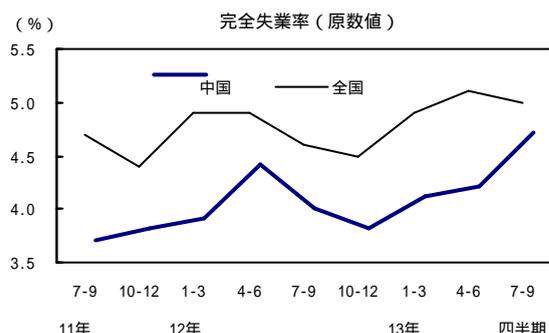
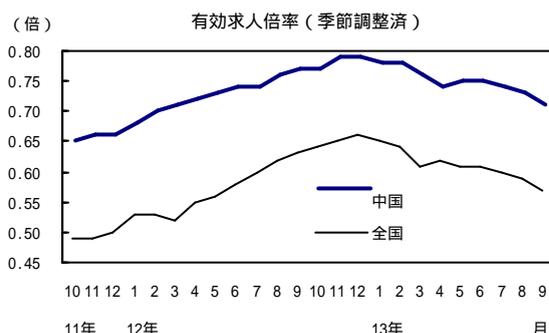


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は、前年同期を上回り、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「有効求人数が最低となっているなか、基幹産業の電気部品製造業や衣服縫製業を中心に、製造業や建設業での停滞感が強まっている(職業安定所)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年10~12月	13年1~3月	4~6	7~9	13年8月	9	10
倒産件数	13.0	4.2	7.9	12.7	22.5	2.6	16.5
負債総額	76.5	16.5	6.3	84.0	19.8	20.6	67.0

景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・米国テロの影響で海外旅行者が減少し、国内旅行者が増加している(タクシー運転手)
- ・山口きらら博が終了したこともあり、売上が10%低下している。山口市内に100円で利用できるコミュニティバスが走ることになり、売上に影響している(タクシー運転手)

<先行き>

- ・大手スーパー倒産により、納入業者の連鎖倒産の恐れが出てきている(広告代理店)

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	40.5	44.5	45.8	38.3	35.0	35.1	32.5	28.8
先行き判断	42.3	50.0	49.8	45.0	42.0	35.4	33.5	32.8

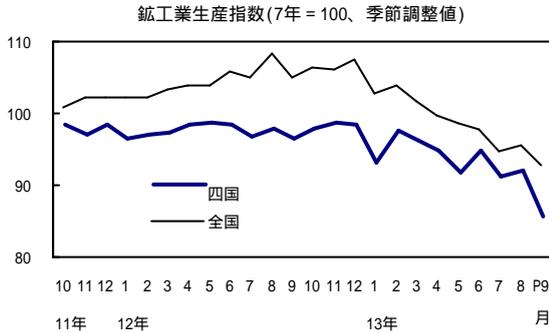
(9) 四国

四国地域では、景気は大幅に悪化している。これは鉱工業生産が大幅に減少し、個人消費は弱含んでおり、雇用情勢もさらに厳しさを増しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

電気機械は、輸出の大幅な減少から半導体集積回路などを中心に大幅に減少している。一般機械は、IT関連需要の減少からパソコン向けの軸受けなどを中心に大幅に減少している。紙・パルプは、印刷用紙などで生産調整を行っている。化学は、海外製品の流入などから在庫は増加している。食料品・たばこは、猛暑の影響などから清涼飲料が好調で増加した。



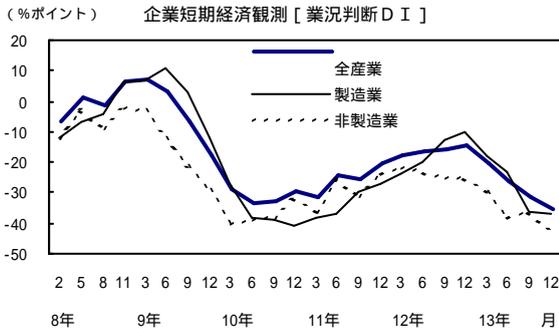
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電気機械	13.1	6.6	14.7	15.8	16.3
紙・パルプ	12.4	0.7	3.8	1.5	0.5
化学	11.8	5.0	1.0	3.8	5.4
食料品・たばこ	11.4	9.7	1.4	0.1	2.7
一般機械	11.3	14.5	10.6	13.9	13.9
鉱工業	100.0	2.0	4.4	5.2	0.6

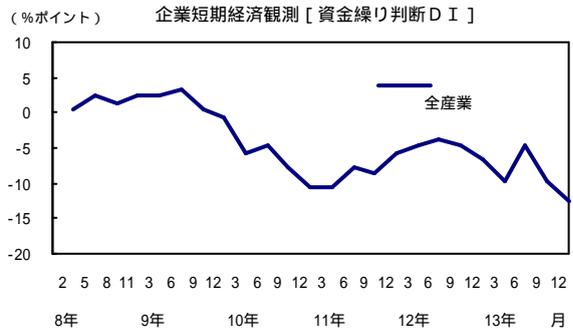
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7~9月期は速報値。

(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「携帯電話の販売量が、競争相手分を含めて、かなり減少している(通信業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

	(前年度比増減率、単位：%)	
	12年度実績	13年度計画
全産業	6.9	3.9
製造業	1.1	10.5
非製造業	11.0	12.4



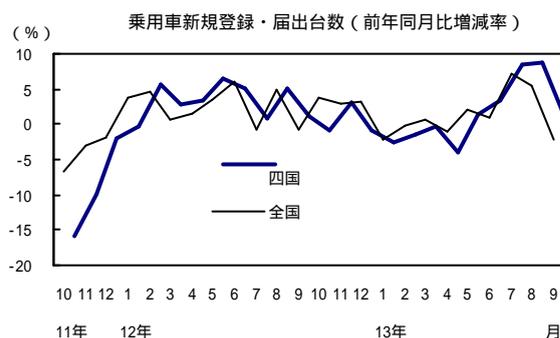
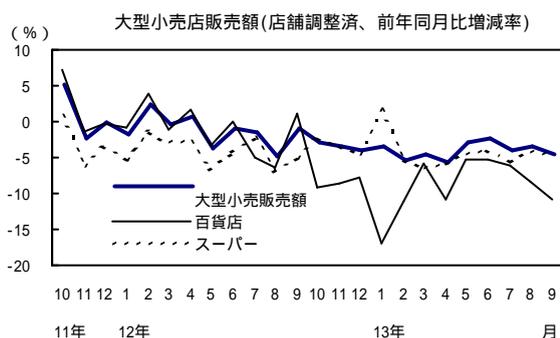
2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は夏物セールの前倒しなどから衣料品が低調であり、中元ギフトの早期受注実施の反動で飲食料品も伸び悩んだ。8月は秋物衣料品の立ち上がりが悪く、9月は婦人服で秋物衣料品に動きがみられたものの、12か月連続で前年を下回っている。

スーパーは、7、8月は猛暑の影響から清涼飲料水やエアコンなどに動きがみられたものの、9月は狂牛病の問題から主力の飲食料品が低調で、8か月連続で前年を下回っている。



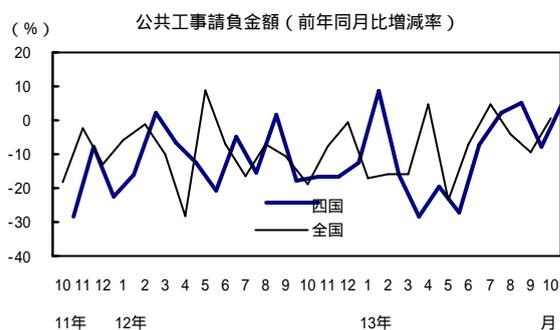
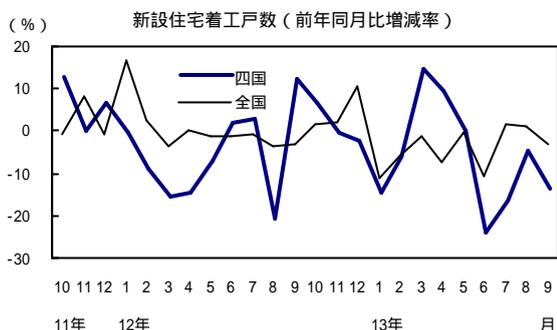
景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「新型車の発売が最近立て続けにあったが、来場者数、販売台数ともに伸びない(乗用車販売店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

	13年 3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	41.5	39.8	40.8	41.3	34.7	34.0	27.5	24.6
先行き判断	41.5	48.1	47.3	45.5	36.6	39.2	33.9	32.9

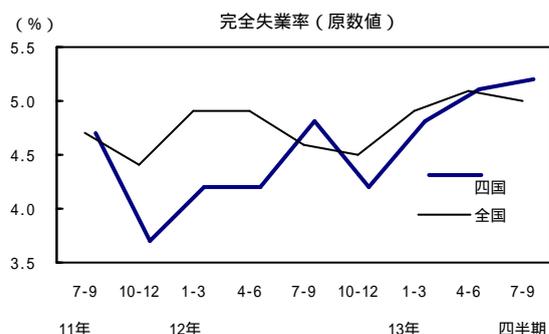
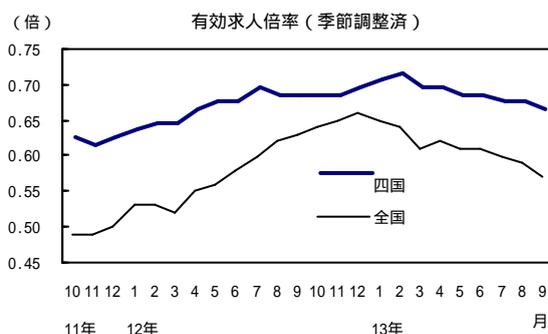
(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

- (2) 住宅建設はさらに減少している。
 持家、貸家が前年を下回って推移しており、基調としてはさらに減少している。
- (3) 公共投資は前年を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢はさらに厳しさを増している。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っており、高い水準にある。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「企業からの求人数の動きはかなり鈍くなっている(人材派遣会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。(前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年10~12月	13年1~3月	4~6	7~9	13年8月	9	10
倒産件数	11.8	12.0	10.6	19.0	18.5	2.1	6.7
負債総額	167.9	317.9	17.2	51.3	48.5	161.3	58.8

景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・冷蔵庫、洗濯機、パソコンなどの動きが悪い(家電量販店)
- ・狂牛病の影響で精肉部門の売上が大幅に減少している。焼肉屋、喫茶店、レストラン等の注文も極端に少なくなっている(スーパー)

<先行き>

- ・輸入品もかなりだぶついており、一層の値下げ要請も強く、国内の産地にとってますます厳しい状況になる(繊維工業)

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	39.9	38.2	39.5	39.2	34.9	31.4	26.2	23.3
先行き判断	42.0	46.2	46.8	43.0	36.5	36.7	31.1	30.4

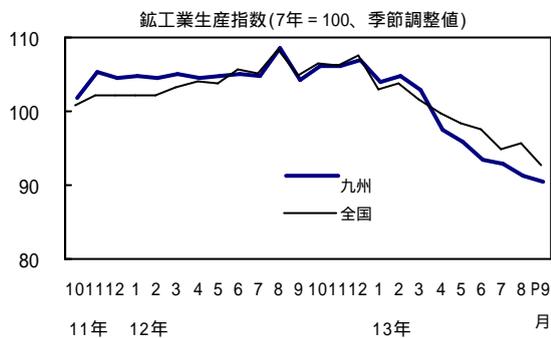
(10)九州

九州地域では、景気は一段と悪化している。これは鉱工業生産が大幅に減少し、個人消費はやや弱含み、雇用情勢が厳しさを増しているからである。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

電気機械はパソコンや携帯電話等IT関連の需要減少が続き、生産が大幅に減少している。窯業・土石製品はファインセラミックスがIT関連の需要減少から減少基調にある。輸送機械は自動車の北米への輸出も好調であることから、おおむね高操業が続いている。一般機械は半導体製造装置の受注減少から減少傾向にある。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

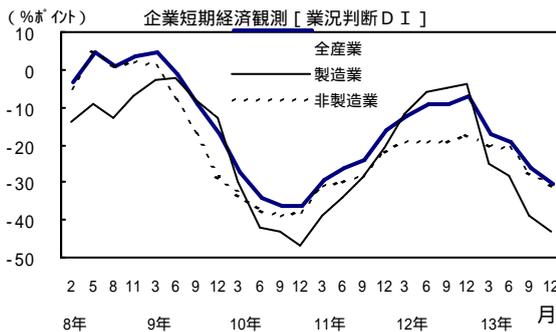
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
電気機械	18.6	19.6	13.4	15.3	14.8
食料品・たばこ	10.8	0.7	0.5	0.3	0.1
化学	10.2	4.3	0.8	1.5	1.3
一般機械	10.2	12.5	0.2	0.4	2.0
輸送機械	9.5	5.7	2.2	3.0	19.1
鉱工業	100.0	7.9	4.3	4.5	5.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

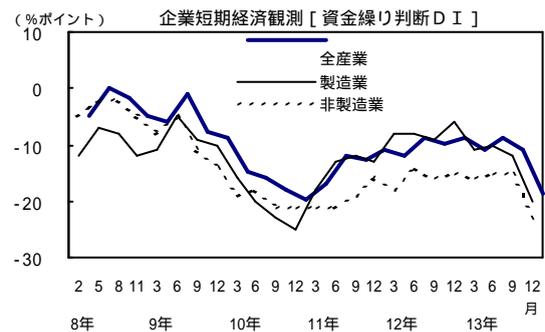
2. 7~9月期は速報値。

(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測

景気ウォッチャー調査(10月調査)[企業動向関連(現状判断)]

「法人からの受注が極端に少なくなっている(建設業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査〔設備投資（9月調査）〕

(前年度比増減率、単位：%)		
	12年度実績	13年度計画
全産業	7.9	12.4(4.5)
製造業	18.0	25.2(14.5)
非製造業	3.8	5.9(0.2)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



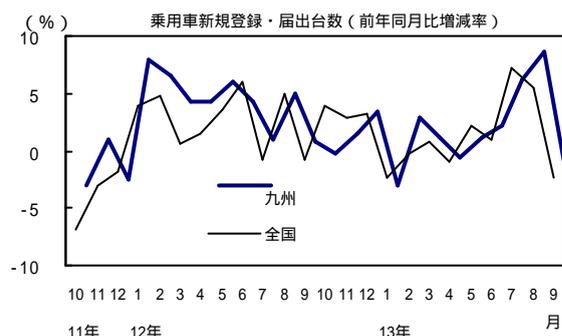
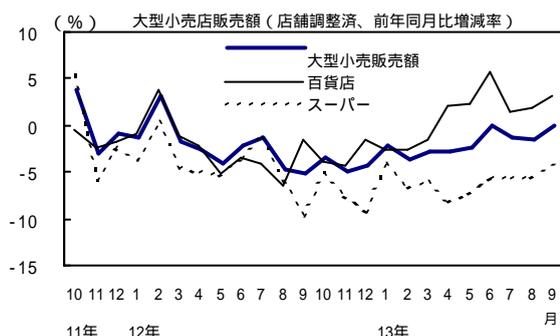
2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、催事、リニューアル効果などに加え、9月は気温の低下により、秋物衣料に動きがみられたことから、前年を上回った。ただし、全店舗では7～9月期3.4%減であり、小倉、黒崎そごうの閉店の影響がみられる。

スーパーは、猛暑により夏物商品、気温の低下により秋物商品に動きがみられたが、低価格化による客単価の低下などにより、前年を下回った。



景気ウォッチャー調査 (10月調査)〔家計動向関連DI (現状判断)〕

「スーパーの安売り競争が週に2、3回も行われている (スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

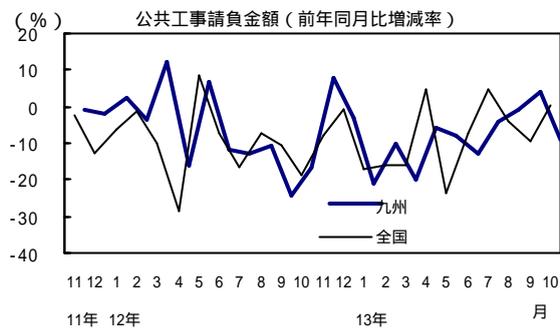
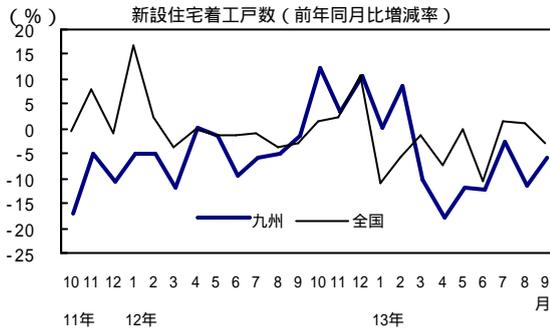
	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	42.2	42.9	45.2	43.8	40.7	32.1	27.9	25.4
先行き判断	41.5	51.0	51.3	47.3	39.5	35.8	33.1	34.0

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が前年を下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

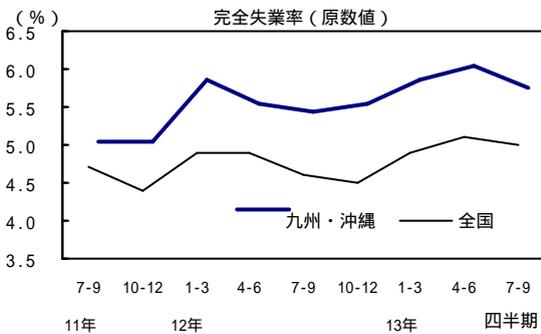
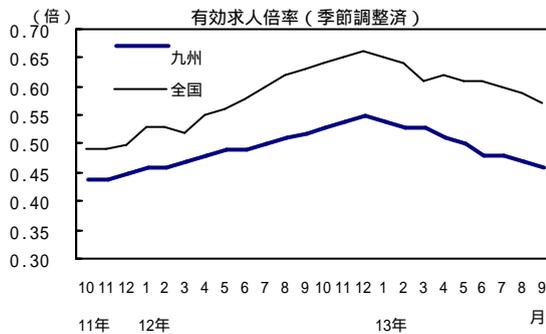


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下しており、完全失業率は前年同期を上回り依然として高い水準にある。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「ハイテク関連の求人件数が急激に減少している(民間職業紹介機関)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年10~12月	13年1~3月	4~6	7~9	13年8月	9	10
倒産件数	8.7	11.7	14.5	11.3	24.4	10.2	18.3
負債総額	46.2	390.1	61.5	18.9	15.9	229.3	65.4

景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・買物メモを持参するなど、客の買い控えが目立つ(コンビニ)
- ・得意先の発注が中国にシフトしており、仕事がなくなっている。半導体関係で新規に契約をしたものの、IT不況のために全く発注がない(電気機械器具製造業)

<先行き>

- ・夜の来客数がめっきり減少している。昼も短時間に集中しており、2時ごろからは客がいらないという状況である。

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	40.5	42.1	43.7	42.4	38.5	30.7	26.5	24.9
先行き判断	41.4	49.3	50.6	45.9	37.1	34.8	31.5	33.2

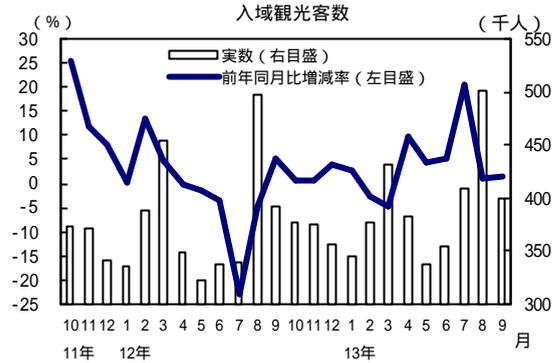
(11) 沖 縄

沖縄地域では、景気は弱まっている。これは住宅建設が増加傾向にあるものの、主力の観光が減少傾向となり、雇用情勢は厳しさを増し、設備投資の先行きについても大幅な減少が見込まれているからである。

1. 生産及び企業動向

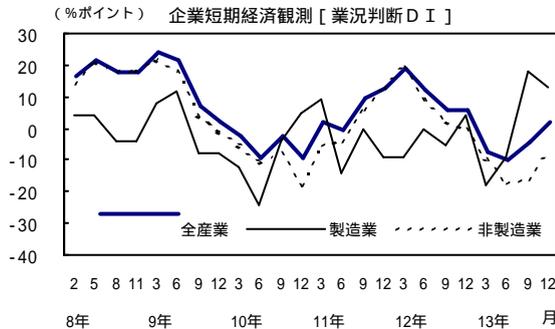
(1) 観光は減少傾向である。

入域観光客数は、格安航空運賃の拡充による需要喚起、好調な修学旅行などの要因により、全体では7月20.3%増、8月0.9%増、9月1.5%増と6か月連続で前年を上回った。しかし、同時多発テロ事件により、10月の国内航空乗客輸送実績人数は対前年比で21.8%減少し、テロ発生から11月6日までの旅行予約キャンセル人数は約21.5万人に達するなど、影響が大きくなっている。

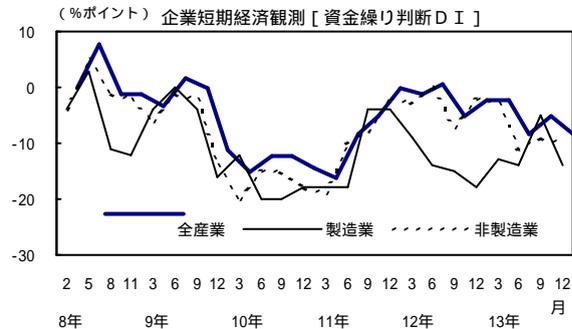


(備考) 入域観光客数①沖縄県観光リゾート局調べ。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。 企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI]



(備考) 「良い」-「悪い」回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。12月は予測。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「来客数や申込、成約が減少しており、客の決断も遅くなっている (不動産業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の13年度計画は前年度実績を大幅に下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位: %)

	12年度実績	13年度計画
全産業	14.0	17.5(3.2)
製造業	7.7	19.5(22.5)
非製造業	15.3	17.1(0.3)

(備考) ()は前回(6月)調査比修正率。

製造業では、食料品で前年度の工場移転投資の反動があり、非製造業では、大型小売店の新規出店が一段落するほか、運輸・倉庫で前年度の物流センターや倉庫建築投資の反動もあり、全産業で前年度実績を大幅に下回る計画となっている。

2. 需要の動向

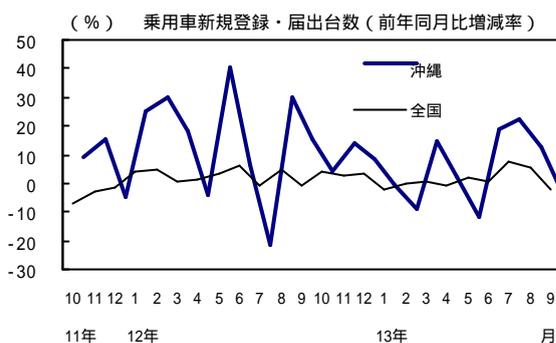
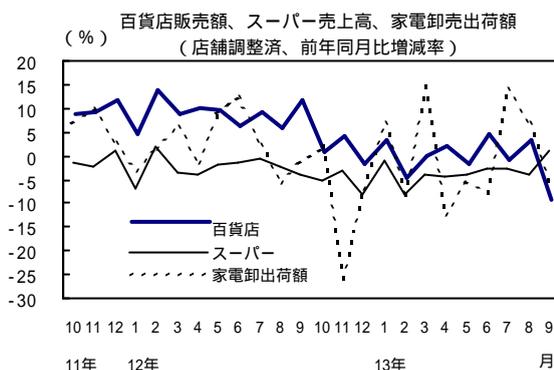
(1) 個人消費はおおむね横ばいの状態にある。

百貨店販売額、スーパー売上高、家電卸出荷額

百貨店は、9月には台風の影響等、天候不順による来客数の減少により前年を大きく下回り、7～9月期でも前年を下回っている。

スーパーは、新規大型店の出店による競争の激化や衣料品を中心に単価低下が続いているものの、既存店では9月に1年7か月ぶりに前年を上回り、全店ベースでの増加も続いている。

家電は、エアコンが好調なものの、パソコン、洗濯機は前年を下回り、基調としては横ばいの状態にある。



(備考) 百貨店販売額、家電出荷額は沖縄銀行調べ。
スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ。

景気ウォッチャー調査 (10月調査)[家計動向関連DⅠ (現状判断)]

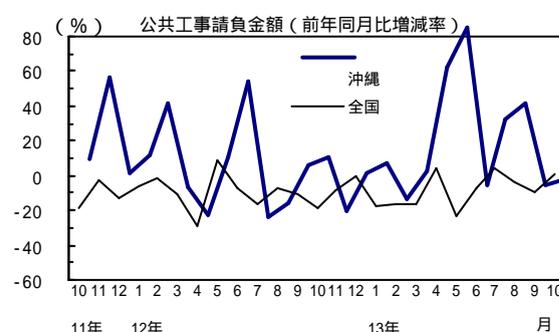
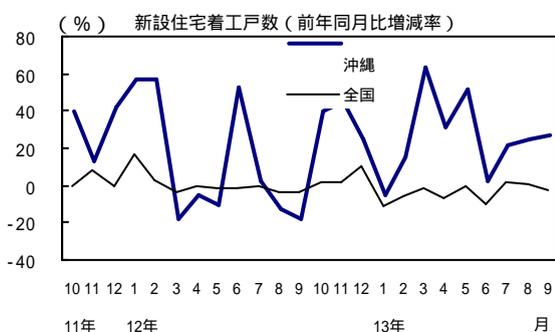
「米国テロの影響で来客数が減少し、11、12月にかけてキャンセルが相次いでいることから、非常に厳しい状況となっている (高級レストラン)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	44.2	36.4	40.0	48.1	44.6	37.1	24.2	20.5
先行き判断	42.3	45.5	51.7	46.2	35.7	38.7	29.8	32.1

(備考) 巻末主要指標 (9) の備考を参照のこと。

(2) 住宅建設は増加傾向で推移している。

(3) 公共投資はこのところ前年を上回っている。

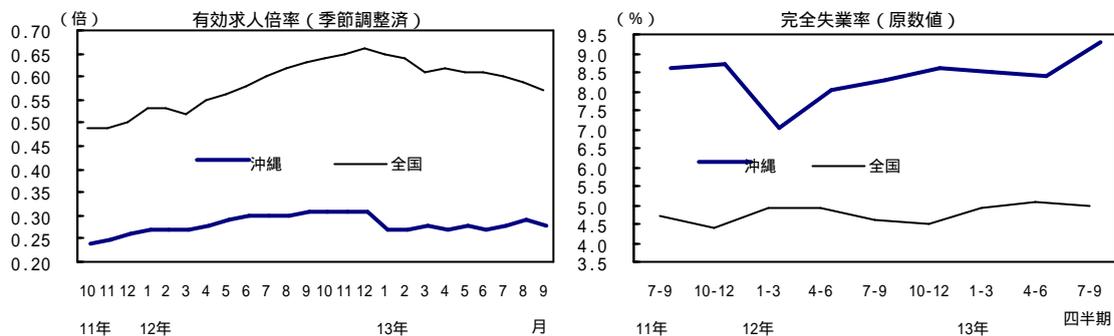


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、このところ横ばいで推移しているが、完全失業率は、前年同期を上回っている。



(備考) 完全失業率の出所は沖縄県。

景気ウォッチャー調査 (10月調査)[雇用関連 (現状判断)]

「県内の就職者数は一定水準で推移しているものの、求人数及び県外就職者数は減少傾向にある (職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は倒産件数が減少している。

(前年同期(月)比増減率、単位:%)

	12年10~12月	13年1~3月	4~6	7~9	13年8月	9	10
倒産件数	0.0	0.0	16.7	10.3	23.1	29.4	7.1
負債総額	57.7	30.4	100.1	68.4	261.5	56.3	186.5

景気ウォッチャー調査 (10月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・台風により来客数が減少している (百貨店)
- ・米国テロによる観光や観光関連業種へのダメージは大きく、ホテルの売上は減少し、雇用状況に影響が出ている (人材派遣会社)

<先行き>

- ・観光客の減少や、基地閉鎖による警察の警備強化による深夜客の減少、単価の取れる牛肉商品の不振等により厳しい状況にある (居酒屋)

	13年3月	4	5	6	7	8	9	10
現状判断	40.8	40.6	41.3	42.9	44.3	38.3	27.8	21.4
先行き判断	44.7	50.0	53.3	45.2	38.6	40.0	32.4	35.7